

鼠径部腫瘍を契機に発見された後腹膜 脱分化型脂肪肉腫の1切除例

蒔田 勝見¹⁾ 緑川 武正¹⁾ 八木 秀文¹⁾
藤原 康朗¹⁾ 相田 邦俊¹⁾ 坂本 道男¹⁾
坂本 良平²⁾ 石井 文規²⁾ 山下 裕一²⁾

1) 医療法人社団朝菊会昭和病院外科

2) 福岡大学医学部消化器外科

要旨：症例は66歳男性．平成15年6月，左鼠径部腫瘍を主訴に受診，C型肝炎の既往のため鼠径ヘルニア術前，腹部CT検査を施行した．左鼠径部の脂肪織は左腎周囲まで連続し，後腹膜に直径8cmの腫瘍を認め後腹膜腫瘍と診断した．ヘルニア及び組織生検のため手術を行った．術中ヘルニア嚢は存在せず，内鼠径輪で脂肪織を結紮摘出した．同時に小開腹下に後腹膜腫瘍の生検を行った．鼠径部腫瘍は脂肪織であったが，後腹膜腫瘍は組織学的に高分化型脂肪肉腫のため後腹膜脂肪肉腫摘出，左腎合併切除を行った．術後補助療法は行わず経過観察していたが，術後3年の腹部CT検査で脾背側に腫瘍を認めた．脂肪肉腫の再発を疑い腫瘍および横隔膜，脾尾部，脾臓合併切除を行った．病理組織は脱分化型であった．半年後の腹部CT検査で再発は認めなかったが，平成19年2月に脳出血のため永眠した．我々は鼠径部腫瘍を契機に発見され，初回手術後3年目に脱分化，再発した後腹膜脂肪肉腫を経験したので報告する．

キーワード：脂肪肉腫，脱分化，後腹膜，鼠径